

このページは、原本著者達が認識していた各地域の分類でしょう。原文には忠実に翻訳いたします。

そして最も重要な事は、このページと前後のページとで、手稿原本が、どこで書かれたのか、およびいつ書かれたのかが解るかもしれません。

最初の絵は、円周の上にかかっている4人の女性です。どのページでも、女性が向いている方向は、自分に関わる事項が書かれた文字の方向です。例外はありますが、それは解るようにしてあります。



dafatab
黄色人

adaqab
その他の人

daqtsb
黒人

bfttdasb
淡黄色人(今日の白人)

(別訳) 豊食人

幾らか費用

支配国

新しい成長

サークル内では女性の絵の横にそれぞれの地域の特徴を書いています。その頭の上の帯内に書いてあるのは、このページでは、その当時のその人々の住んでいた地域の紹介などです。今でも国名は女性名詞ですね。体の形はその人々の標準的な外形をも表しています。EUやUSA同様「☆」は国や地域を表現しています。

したがって、ここに歴史上のどの地域の記載が有るか無いかを考えれば、手稿原本がいつ頃書かれたのかがだいたい解ります。

ここでこの手稿の秘密の約束事をもう一つお伝えしておきます。

それぞれの女性が持っている「星」と体が両方表示してある場合は、現在存在する国を示します。他のページになりますが、「星」だけで表示されている場合の国は消滅した国を示します。

「国別紹介」では星に紐がついている場合は当時の現存国を示します。

なお、原本では星の色がそれぞれの人々の肌の色を表していたはずですが、残念ながら現在では色が薄れていますので判別は難しいです。また、原本の写筆時に正しく移されたかどうかとも問題です。

それとここでもう一つ。「手稿」の中で解読難解な部分ですが、バスタブのページが沢山あります。

水は必ず上から下に流れます。それを時間の流れとして捉え、バスタブ内の女性を国として考えると、バスタブのページは「歴史」になります。当時は国境の概念が少なく、バスタブの大きさが勢力範囲を示しています。

もしそうだとしたら、過去の歴史を知る大変な発見になります。そして、それぞれ一つづつを考古学的に実証すれば、私達の知恵がまた大きく広がります。将来誰れかによって必ず解読されます。

さて、このページ前後にサークルが12個書かれています。円の中心に描かれている絵は、それぞれのサークルでの国別比較のテーマでしょうか。後の時代の加筆があるので、判別が解りません。

ここではサークル外輪には16人、内輪には10人居ます。中心には「生きている動物」が描かれています。その中心の周りにも文章が書かれています。動物の下の説明は後日の追加で意味がないと思います。

はたして、日本人は出てくるのでしょうか。

それでは上の黄色い人の足元の女性から、時計回りに読んでいきましょう。残念ながら順番は地理的には並んでいないようです。

(外側) 上の帯内の説明

横の説明

01 kaumaatsata 領地に国を加える	daqtdasb 支配成長
02 aatpaatb saraumb 交易国を加える	ボスは希望の人
03 daftdakair ar 大変貧しい所の土地	dafttsbum 若い国が色々
04 daftdaksaum aadafaab 大変貧しい指導者、幾らかの豊かさが必要	bqtttsb 今後の国
05 kdaftttk aumbatb 後に若くなる方向へ希望が変化	daqttb 被支配者
06 dattk aumaattk 決まった希望に方向性を持たせる	daqtttsb 被支配国
07 aatdatb st*** 人々を増やし止まった***	bqtttdarb 被支配が残る
	dafttdakb 若くて強い人

08 aadafttb aatfttb	幾らか貧しい国、足元の国を加えた		
09 aatfttbdakand aatfaadasb	足元の国を強く加え良い成長を追加	batqaum	多くの小さな希望
10 aatsar ar aatfttb	ボスを追加し土地に足元の国を追加	dafttsbz	若い国に成った
11 daftdak ar air aum dar	大変貧しい土地と場所、希望は農地	daqtsbs	支配国の集まり
12 batfdat bfttb	多くの豊かさは表だけ、貧しい国	aasb	私達の国
13 aatdasb bqtbsazi	成長し、古い国で可能性が集まる	saumbatb	指導者が変化
14 daftdak aumar	大変貧しく希望は土地	dapand	質素
15 aumaatqb	ヤマト地方(tbではなく、複数の国々である事が示唆されている)	bqtdak	古くなく強い
16 bpdaumaattb	交流の家、国を追加	daftb	豊かな国
		dafatab	黄色人

次は内側です。外側の女性と同じ位置から時計回りです。

(内側) 上の帯内の説明

横の説明

ここは説明の始まりが解りません。前後の国との混同があります。

17 dafttb sar aum dapand	貧しい国、ボスも若者も質素		
18 daumaumand k airazi	家の希望であったが後に場所ができた	daqarb	自立地の人
19 aadapaatsb aasar araazi	幾らか多くない国、幾らかのボスに農地ができた	daqttasb	被支配成長
20 dafarttk aumfttb	豊かな土地を纏める方向、希望は足元の国	dabfttsb	小さな新しくない国
21 daqtk dafaraatb	支配方向で豊かな土地を追加	daqb	支配
22 dafttk daadar	貧しい契約、支配の農地	aatgb	地方を加える
23 daparaatb sand	広い土地を加えた国土	dafaum	豊かな希望
24 nadaattb	支配されていない国	batq	豊かな水
25 kaattb	あとから国を追加	ar	土地だけ
26 saum aatkb	指導者が長く続く	ziar	可能な土地
		daqtdak	支配が固い

さて中央の文字です。左上から時計回りです。

27 dakand	強くはあるが(硬い意志を持った)
28 aatsaid	長老を加え
29 dafttb	若い人
30 aatsaumb	子供を追加
31 daqtaak	支配の大船
32 aatp aattkaumb	風を受け、方向を加えた子供達
33 daftdasata	貧しい出入りの食事

ここの 27-33 は国名ではなく、文章の様です。続けて読むと次の様になりました。

「意志を固めた老人と若い人に子供達を加え、専有の大船に乗せた。
風を受け、生きる方向を決めた子供達だったが、食事は貧しかった。」

まるで「徐福」一行の出立の様です。

上記 11 が筆者の土地です。また、15 には「ヤマト」の記載があります。
日本がヤマトと呼ばれたのは「奈良ヤマト」の場合は5世紀頃でしょうか。
「九州ヤマト」の場合は2-4世紀頃でしょう。

他のページを翻訳しますと、この手稿は九州ヤマトの時期だと判断できます。

この言語には「y」の発音が未だに見つかりません。
「au」で代用しているのでしょう

前記の国名・特徴などは判断が難しいので、私には解りません。
内容の真偽は今後の研究をお願いします。
詳しく解ればこの手稿原本の時期がわかります。

下図はヤマト人のお姿です。涙の様に見えるのは、刺青の印です。
刺青は中国から伝わり、日本では九州などに特有だったそうです。

